

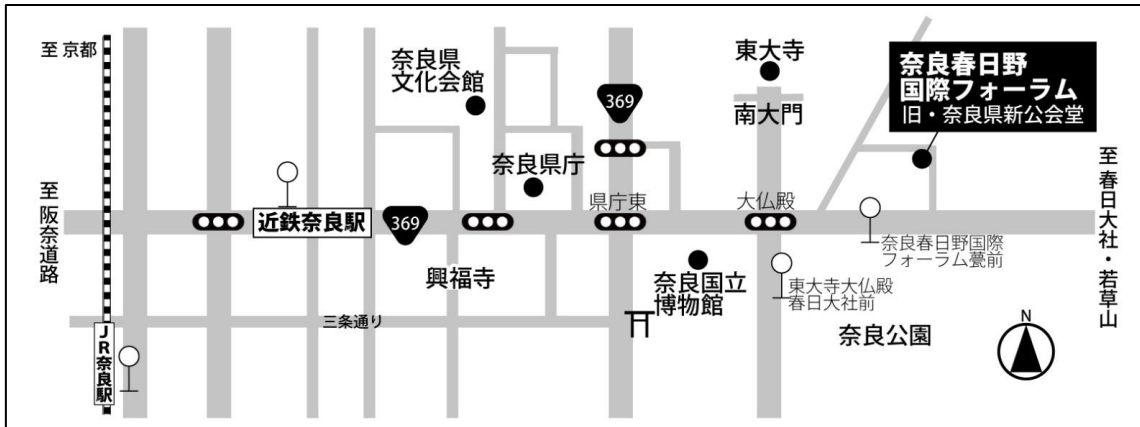
## 会場までのアクセス

奈良春日野国際フォーラム 麓～I・RA・KA～(旧奈良県新公会堂)

〒630-8212 奈良市春日野町 101

TEL 0742-27-2630 FAX 0742-27-2634

(奈良春日野国際フォーラムの HP 参照 : <http://www.i-ra-ka.jp/iraka/access/>)



### ・ 徒歩

近鉄奈良駅 2 番出口より徒歩 20 分

### ・ バス

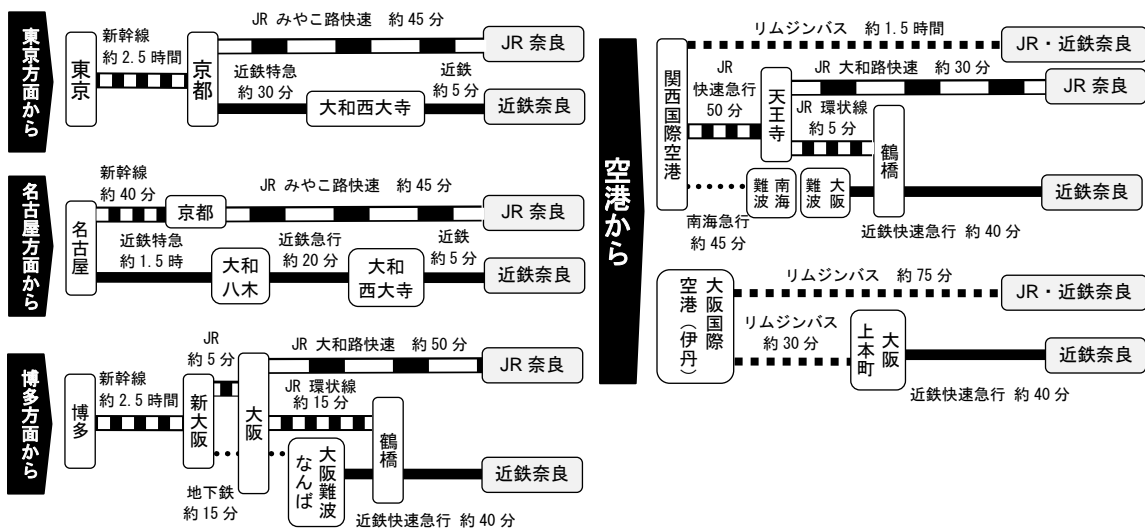
(1) 近鉄奈良駅 5 番出口より奈良交通バス 1 番のりば

(2) JR 奈良駅より奈良交通バス東口 2 番のりば

(1)、(2) とも

「春日大社本殿」行き「奈良春日野国際フォーラム麓前」下車すぐ又は、「市内循環 (外回り)」バス「東大寺大仏殿・春日大社前」下車、大仏殿交差点東へ徒歩 3 分

### 【交通】



## 年会参加者各位へのご案内

### <参加者の皆様へ>

- 年会への参加は参加登録を済ませた方に限ります。
- 当日、会場は9:00に開場致します。
- 事前登録されている方には参加証と要旨集を郵送致します。会場でカードケースを用意しますので、会期中は必ずお付けください。参加証をお忘れになった方は総合受付にお申し出ください。参加証のない方の入場はお断りします。
- 年会当日に参加申込をされる方は、総合受付にて参加申込用紙に該当事項を記入の上、当日参加費を支払い、参加証および講演要旨集をお受け取りください。なお、領収書が必要な方は、その旨お申し出ください。

当日参加費	会員	5,000 円
	非会員	6,000 円
	学生	無料

- 講演会場内での飲食はご遠慮ください。会場館内は全面禁煙です。
- 会場周辺には飲食店がありません。ポスター会場内に昼食会場を設けますのでご利用ください。また、会場にてお弁当（1000 円）の販売を行います。
- ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。

### <懇親会>

18:30より2階 レセプションホールで行います。当日参加も受け付けております。受付までお申し出ください。

懇親会参加費	会員・非会員	5,000 円
	学生	1,000 円

### <薬史ツアー>

2015 年会では、薬史ツアーを以下の要領で開催いたします。

日時：2015 年 11 月 22 日（日）8 時 30 分～16 時 30 分（予定）

定員 30 名程度、料金 10,000 円程度（昼食代込、当日支払い）

参加者には出発地に近いホテルの準備が可能です。

[8:30] 出発

榎原ロイヤルホテル —— 三光丸クスリ資料館 —— 宇陀市歴史文化館「薬の館」  
—— 昼食（大願寺・薬草料理）—— 法相宗大本山 薬師寺（現地解散）

\*薬師寺にて平山郁夫画伯による大唐西域壁画の特別鑑賞許可を得ております。また、般若心経の写経〔永久保存〕も予定しております。

### <会場内でのご注意>

会場内では、携帯電話の電源を切るかマナーモードに設定してください。会場内での通話をご遠慮ください。また、講演中の録音、写真およびビデオ撮影はお断り致します。

### <薬剤師研修認定のための受講シールの申請と配布>

本年会は、日本薬剤師研修センターの集合研修会となっております。また、「漢方薬・生薬認定薬剤師」更新のための研修単位としても認められます。希望される方は申請をしてください。

受付場所： 総合受付 薬剤師研修センター受講シール受付

配布時間： 16:00 ~ 18:30

受講シール：受講単位は4単位です。

受付で申請用紙に必要事項を記入し、参加証とともに提出してください。

### <その他>

- 参加者・講演者各位へのご案内は、ホームページでアップされているものを最新とします。
- クロークを本部隣（小会議室1）に設置します。開設時間：9:00 ~ 20:30

日本薬史学会 2015 年会（奈良）

年会長 村岡 修

事務局連絡先

〒577-8502 東大阪市小若江3丁目4番1号 近畿大学薬学部内

TEL 06-4307-4306 FAX 06-6729-3577

E-mail: yakushi2015@phar.kindai.ac.jp

<http://yakushi.umin.jp/meetings/nenkai.html>

## 発表に関するご案内

### <座長の先生方へ>

- ご到着の旨をご担当の講演時間の 40 分前までに受付にご連絡ください。
- 会場に次座長席を設けていますので、ご担当の講演開始 10 分前までにお席にお着きください。
- 国際シンポジウムおよびシンポジウムの発表時間は、質疑応答を含めてそれぞれ 30 分となっております。
- 一般演題の発表時間は質疑応答を含め演者（または座長）の交代時間も含めて 12 分（発表 10 分、質疑応答 2 分）となっております。
- 発表時間につきましては、以下の要領でお知らせいたします。
  - 予鈴 1 回：発表終了 1 分前
  - 予鈴 2 回：発表終了時
  - 予鈴 3 回：質疑応答終了時
- 各演題の進行は、プログラムに沿って座長の先生にお任せいたします。
- 円滑な進行にご協力をお願いいたします。

### <口頭発表講演者の方へ>

- ご発表の 10 分前までに会場の次演者席までお越しください。
- 一般演題の発表時間は質疑応答を含め演者の交代時間も含めて 12 分（発表 10 分、質疑応答 2 分）となっております。
- 発表時間につきましては、以下の要領でお知らせいたします。
  - 予鈴 1 回：発表終了 1 分前
  - 予鈴 2 回：発表終了時
  - 予鈴 3 回：質疑応答終了時
- 講演はご自身のノート型パソコンをご用意いただき、講演中もご自身で操作して画像を進めてください。会場スタッフはパソコントラブルには対応致しません。習熟したパソコンをご使用ください。
- プロジェクターへの接続は、会場の D-sub mini 15pin（オス）タイプのコネクタをパソコンの D-sub mini 15pin（メス）につないで行います。この端子に接続できないノート型パソコンを使用される場合には、必ず別途変換コネクタを必ずご用意ください。また、ご持参のノート型パソコンのモニターとプロジェクター画面の切り替え操作（例：ファンクションキー(Fn)+F3 など）をあらかじめご確認ください。



D-sub mini 15pin (オス)  
会場プロジェクター側

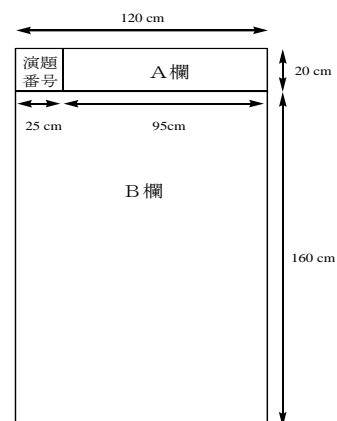


D-sub mini 15pin (メス)  
パソコン側接続口

- ノート型パソコンを講演会場受付にお預けの際には、講演開始までの間にスリープを避けるために「省エネルギー設定」「スクリーンセーバー」を解除し、また、起動時（またはスリープ状態からの回復時）のパスワード設定をしないでください。また、必ず電源ケーブルをご持参ください。
- 万が一のパソコントラブルの際の控えとして、データを CD-R や USB メモリ など でバックアップ をとり、ご持参ください。

#### <ポスター発表講演者の方へ>

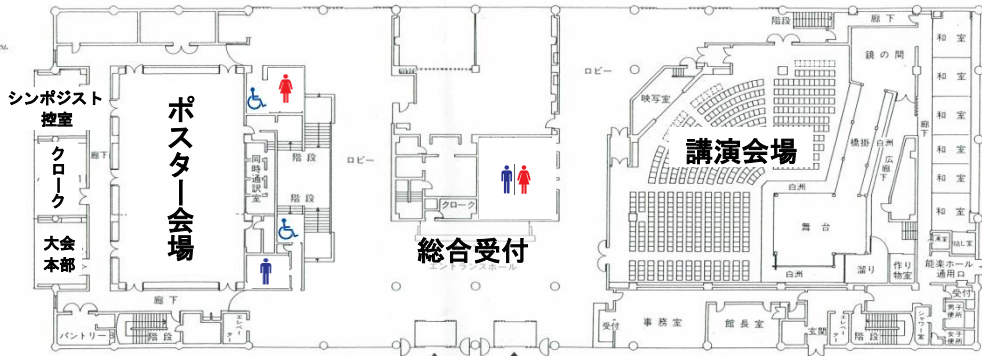
- ポスターは、午前中に所定の場所に掲示をお願いいたします。
- 示説時間は、13:00 から 14:00 までです。示説時間中はご自身のポスターの前で説明や討論を行ってください。（リボンを用意致しますのでご着用ください。）
- ポスターの掲示スペースは、縦 160×横 120 cm です（右図参照）。左上隅に 20×25 cm の演題番号をあらかじめ掲示しますので、ご自身の演題番号と一致するスペースをご使用ください。図中の A 欄 20×95cm に演題、所属、共同研究者（演者には○印をつける）を、B 欄に発表内容のポスターを貼付けてください。なお、一区画内の枚数に制限はありませんが、文字、図は見やすいものになるように工夫してください。
- ポスターの撤去は、17:00 以降をお願い致します。
- 撤去時間を過ぎても撤去されないポスターについては、事務局で対応致します。時間の都合上、撤去時間までにお帰りの際は受付にご連絡ください。



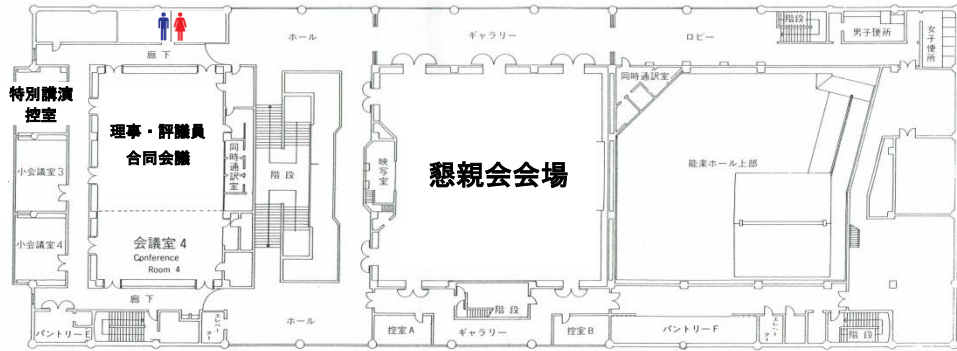
# 会場案内



1F



2F



## プログラム

受付 (9:00～)

開会の挨拶 (9:30～9:40)

2015 年会の開催にあたって

2015 年会長 村岡 修

一般演題 1～4 (9:40～10:28)

【座長：森本 和滋、ヨング ジュリア】

1. 医薬品の一般名に関する考察 (4)：抗菌薬の名称

○三澤 美和 (日本薬科大学)

2. 米国における医療大麻のコンパッションネート・ユース制度の歴史

○宮路 天平<sup>1</sup>、山口 拓洋<sup>1,2</sup>、津谷 喜一郎<sup>3</sup>

(<sup>1</sup> 東京大学大学院医学系研究科 臨床試験データ管理学講座、

<sup>2</sup> 東北大学大学院医学系研究科 医学統計学分野、<sup>3</sup> 東京大学大学院薬学系研究科)

3. 蘭方薬「ウルユス」と「ホルトス」の考察

○野尻 佳与子 (奈良女子大学大学院人間文化研究科)

4. 韓国近代薬学教育 100 年の歴史

○沈 昌求、金 鎮雄、張 允二 (韓国ソウル大学薬学部)

国際シンポジウム (10:28～11:58)

【座長：沈 昌求、肖 永芝】

グローバル商品としての朝鮮人参—日本・中国・朝鮮における歴史—

[日本] 江戸期の朝鮮人参—交易と国産化

田代 和生 (慶應義塾大学名誉教授)

[中国] 明治初期の日本の朝鮮人参産業貿易政策と中国市場

童 徳琴 (九州大学人文科学部東洋史学研究室)

[韓国] 朝鮮総督府の朝鮮人参政策—専売政策・貿易政策・有用植物探究—

慎 蒼健 (東京理科大学大学院科学教育研究科教授)

(大韓医史学会・学会誌編集委員)

昼食・休憩 (11:58～13:00)

日本薬史学会理事・評議員合同会議 (12:10～13:00) 2F 会議室 3

ポスター発表示説時間 (13:00～14:00)

特別講演 市民公開講座 (14:00～15:00)

【司会：村岡 修】

医薬の仏 薬師瑠璃光如来と薬師寺

法相宗大本山薬師寺 管主 山田 法胤 師

休憩 (15:00～15:12)

一般演題 5～8 (15:12～16:00)

【座長：伊藤 美千穂、河村 典久】

5. 備中売薬の歴史について

○土岐 隆信 (株式会社 エバルス)

6. 石見銀山「採薬稼」鑑札について

○成田 研一 (島根県薬剤師会江津・邑智支部)

7. イタリア・フィレンツェの医薬史跡群 —新聖女マリア薬局、新聖女マリア病院、動物学博物館、ガリレオ博物館など

○石田 純郎 (岡山大学医学部非常勤講師)

8. フリードリッヒ II 世の皇帝の書 第3報

○辰野 美紀 (順天堂大学医学部医史学研究室)

シンポジウム (16:00～18:00) まほろば大和の薬と歴史

【座長：宮崎 啓一、竹原 潤】

古代大和の薬燼—宇陀野と羽内—

和田 萃 (京都教育大学名誉教授)

胃腸妙薬の陀羅尼助—伝承から科学まで—

銭谷 伊直 (薬剤師・森林インストラクター)

森野旧薬園から発信する生薬国産化のキーテクノロジー

高橋 京子 (大阪大学総合学術博物館 兼 大学院薬学研究科)

近現代奈良の薬業小史

武知 京三 (近畿大学名誉教授)



2016 年会 年会長挨拶 (18:00～18:10)

2016 年会長 岡田 嘉仁 (明治薬大)

閉会の挨拶 (18:10～18:15)

2015 年会実行委員長 宮崎 啓一

懇親会 (18:30～) 2階 レセプションホール

## ポスター発表 (13:00~14:00)

1. フリードリッヒ・フォン・ハイデンと旧サリチル酸工場化学史跡について  
○中辻 慎一 (兵庫県立大学大学院物質理学研究科)
2. 薬種問屋から製薬企業への発展—二代塩野義三郎と五代武田長兵衛—  
○安士 昌一郎 (法政大学大学院 経営学研究科)
3. 日本のアミノ酸系医薬品開発 50 年の変遷 (その5) —アミノ酸由来のアルカロイド系医薬品—  
○荒井 裕美子<sup>1</sup>、松本 和男<sup>2</sup>  
(<sup>1</sup>(一財)日本医薬情報センター (JAPIC)、<sup>2</sup>京都大学化学研究所)
4. フランス薬学教育の歴史:16 世紀から現在に至る日仏の薬学教育の比較検討に基づく我が国の薬学教育のあり方に関する研究  
○儀我 久美子<sup>1</sup>、越前 宏俊<sup>2</sup> (<sup>1</sup>東京都立青山特別支援学校、<sup>2</sup>明治薬科大学)
5. History of Ginseng Research  
○Jeong Hill Park (College of Pharmacy, Seoul National University)
6. 中日韓の医薬文献の中に高麗人参の記載の伝承とお互いの関係  
○肖 永芝 (中国中医科学院中国医史文献研究所)
7. 日本酒の奈良地方発祥のルーツと効用の歴史  
○鈴木 利一、松本 和男 ((株) ナールスコーポレーション)
8. 生薬「柿蒂」の薬能及び薬用部位に関する史的深化  
○楠木 歩美<sup>1</sup>、高浦 佳代子<sup>1,2</sup>、高橋 京子<sup>1,2</sup>  
(<sup>1</sup>大阪大学大学院薬学研究科、<sup>2</sup>大阪大学総合学術博物館)
9. 奈良県漢方のメッカ推進プロジェクト  
橋本 安弘<sup>1</sup>、前阪 祥弘<sup>2</sup>、和田 正光<sup>3</sup>、○辻元 康人<sup>4</sup>、清水 浩美<sup>5</sup>、  
浅尾 浩史<sup>6</sup>、植山 高光<sup>7</sup>  
(<sup>1</sup>奈良県知事公室、<sup>2</sup>産業政策課、<sup>3</sup>農業水産振興課、<sup>4</sup>薬務課、  
<sup>5</sup>産業振興総合センター、<sup>6</sup>農業研究開発センター、<sup>7</sup>薬事研究センター)